

「スパ・ウェザー 嵐の激戦」

第3戦を迎えた、K耐久東海シリーズ2014は早くもシーズンの折り返し。例年なら真夏の太陽が容赦なく照りつけるなかでの熱戦となるところだが、今年は様子が違う。週の前半日本を襲った台風8号こそ東海地方を過ぎ去ったが、今一つはっきりしない天気。天候の変わりやすいことではアルデンヌの森にも負けない。はたしてスパウェザーは来るのか、そしてそれを制する者は！



雨中の激走で見事初優勝！ #410



惜しくも同一 Lap で 2 位 #35



40 キロのウエイトながらランクトップはキープ



序盤はドライだったが #28



もう少し速さが欲しいか #95

「KNN」クラス（軽NAのノーマルクラス）

今回も6台が参加したKNNクラス。開幕2連勝と最高のスタートを切った#100「HAC もらいものビート」、ここでハットトリックとなればシリーズの流れを一気につかむことができる。それを阻止したいライバルチームとの争いが見もの。

■予選

曇り空の中予選トップを獲得したのは、今回もまた#35「JKレーシングユーロビート」で1'09.625。これで開幕からすべて予選クラストップを獲得。あとはこの速さを今季初優勝につなげたい。予選2番手に飛び込んできたのは#410「ACRS TODAY」、前戦は完走扱いにならなかつたうっ憤を晴らす、1'09.961はお見事。3番手はこのところ好調の#10「FASTOUT アルト」が1'10.990、前戦の2位を超えて狙うは頂点。4番手は#100「HAC もらいものビート」、1'12.550。一発の速さはないが、レースをうまくまとめてここまで連勝、ハットトリックなるか。5番手は#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」1'12.829、NA ヴィヴィオは個性的マシンだが、予選タイムは前戦より大幅アップで、決勝に臨む。予選6番手は#95「KHK アルト」1'14.004、でこちらも予選タイムは大幅アップで決勝に期待。

■序盤

スタートから順当にトップに立ったのは#35「JKレーシングユーロビート」、不安定な天候の中Lapを刻む。2位争いは#100「HAC もらいものビート」と#410「ACRS TODAY」。それに#10「FASTOUT アルト」が絡む。ビート、トゥディ、新規格アルトとさまざまなマシンが拮抗するという面白い展開となっているKNN。以下、5番手#95「KHK アルト」も新規格アルト、6番手#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」と続く。

■中盤

レース中盤からはいよいよ雨が本格化。ウォータースクリーンのなか慎重かつ確実なドライビングが求められる。トップを行くのは相変わらず#35「JKレーシングユーロビート」だが、2位以下は混戦。#10「FASTOUT アルト」、#410「ACRS TODAY」、#95「KHK アルト」、#100「HAC もらいものビート」と2Lap差の展開。各車天候もにらみながらもピットインやドライバー交代のプランを練っている。#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」も最下位だが、十分挽回は可能だ。ストレートでのウォータースプラッシュは幻想的な光景だが、集中力を切らさないドライバーの努力の賜物ともいえる。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

終盤は雨も少し小降りになり、各車最後のスパートに。ここで上位が上がってきたのは、#100「HAC もらいものビート」と#35「JKレーシングユーロビート」という実力派チーム、それに今回まさに台風の目となっている#410「ACRS TODAY」が加わり最後の戦い、さらに4番手の#10「FASTOUT アルト」も表彰台のチャンスは充分で、目が離せない。

5番手6番手の#95「KHK アルト」、#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」も気を抜かずに完走を目指す。

■最終結果

ゴールまであと少しとなったところで、他クラスのマシンがコースアウト。セーフティカー導入となってしまふ。第2戦でも見られた光景だが、今回は最後にグリーンフラッグ振られてレース再開。1Lapのちチェッカーとなった。路面はウエットだが、気が付けば雨はもう上がっていた。

そんな天候の中トップチェッカーはなんと、#410「ACRS TODAY」。残り最終ステントが終わった時点でトップに立っておりそのまま栄光の初優勝。2位は同一Lapで#35「JKレーシングユーロビート」、3位はハットを狙った#100「HAC もらいものビート」が表彰台を獲得。4位は#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」、5位#95「KHK アルト」、6位#10「FASTOUT アルト」で全車完走。

■総評

前回完走扱いにならなかったうっ憤晴らしとばかりに#410「ACRS TODAY」が鮮やかな逆転優勝。2位、3位に有力チームを引き連れての表彰台となった。#100は3連勝は逃したが、しっかりとランクトップはキープ。さあ次は4時間耐久だ！



残念、最後は失速 #10



雨の中お疲れさまでした



初インタビュー！



オイルはなんとなんと3連勝！！





序盤からリードを広げた #25

KNCクラス（軽NAのクロードクラス）

一台 DNS があり出走は 4 台、中身の濃いバトルが期待される。ランキング 2 位の #60「明智自動車スペシャルトゥディ」は欠席だが、トップに行く #66「SCCV トゥディ」に加え、赤白マシンが復活した #25「アカミネコマル 2 トゥディ」、前回規定違反でノーポイントとなった #41「まっかなバラードトゥディ」と有力どころが顔をそろえた。

■予選

予選トップは #41「まっかなバラードトゥディ」、前戦の雪辱を晴らそうと意気込みで 1'08.384。#66「SCCV トゥディ」は 3 戦連続の予選トップはならず、20 キロのウエイトハンデが響いたか、1'08.437 とわずかに及ばず。3 番手は #25「アカミネコマル 2 トゥディ」1'08.479 とこのあたりはタイム差は超接近、早くも熱戦の予感。予選 4 番手はクラス唯一のビート、#55「志らはビート」1'10.503 と前回より予選タイムは大幅アップで決勝のグリッドに向かう。

■序盤

序盤からトップに立つのは #25「アカミネコマル 2 トゥディ」、前回の”臨時マシン”ではなくお馴染みの赤白マシンに戻ったことで元気なネコが復活か、まずはペースを握る。それを追いかけるのは #66「SCCV トゥディ」。3 位は、#55「志らはビート」、#41「まっかなバラードトゥディ」は早めのピット戦略か、序盤は 4 番手で上位をうかがう。

■中盤

この日の #25「アカミネコマル 2 トゥディ」は快調そのもの、2 番手以下にじわじわと差をつける。一方 2 位以下は混戦模様、#66「SCCV トゥディ」、#41「まっかなバラードトゥディ」がトップへの挑戦権をかけての 2 番手争い。#55「志らはビート」も遅れずについていきたい。なにしろこの天候、何が起きても不思議ではない。

■終盤

終盤になっても #25「アカミネコマル 2 トゥディ」の優位は揺るがない。2 時間経過時点で、2 位 #66「SCCV トゥディ」の 2Lap の差をつけて、レースをコントロール。3 番手は #41「まっかなバラードトゥディ」でさらに 2Lap。#55「志らはビート」は表彰台まで届くか。雨は小降りになったものの路面は相変わらずウエット、コースのところどころではスプラッシュも起きている。レース終盤各チーム、ドライバーは最大限の注意を払っての戦いが続く。



一步及ばず 2 位 #41



ウエイトがきいたか #66



表彰台まであと一步 #55

Race Report



■最終結果

第2戦と同じく、チェッカー目前に他クラスのコースアウトからセーフティカーが
出動となったが、今回はラストグリーンフラッグが振られセーフティカー先導で
のチェッカーとはならなかった。

雨のレースを制したのは、終始安定した走りを見せた#25「アカミネコマル2ト
ウディ」。終わってみれば2Lapの差をつけて完勝。2位には#41「まっかなバラ
ードトゥディ」が入った。3位は#66「SCCVトゥディ」、やはり20キロのウエイト
がきたか、それでも表彰台の一角は死守して見せた。4位はビートで孤軍奮
闘#55「志らはビート」、滑りやすい路面でのミッドシップをゴールまで導いた。

■総評

復活した”赤白ネコ”は縁起がいいのか、優勝という福を呼び込んだ。が、#66
「SCCVトゥディ」も離されずに食らいつく。前回章典外だった#41「まっかなバラ
ードトゥディ」もポイントを獲得した。いよいよ次戦は4時間耐久、残暑の西浦で
シリーズタイトルへの道を見つけるのはどのチームか。

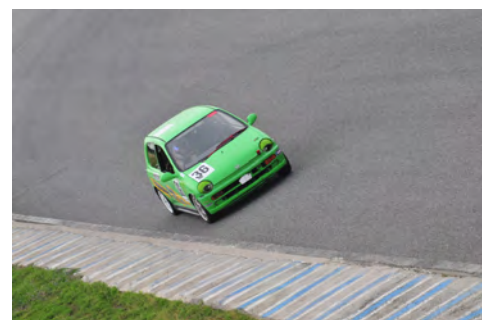


雨中のハイテンションドライブ

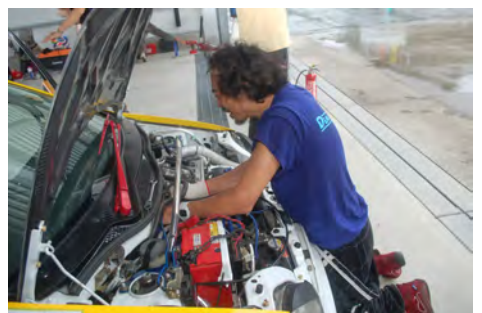




総合チェッカーはお見事！ #23



開幕戦以来の2位表彰台 #36



懸命の修理も及ばず #38



KNOクラス（軽NAのオープンクラス）

レース展開によっては総合優勝も狙えるこのクラス、エントリーは3台。ここまで#38「デモリッションエグゼトウディ」が開幕連勝で、このクラスでもハットトリックのチャンスが・・・それを阻止するチームはどこか。

■予選

予選トップは、#23「チームミニ トウディ」が1'05.855で総合のフロントローに並ぶ。予選2位は#36「JKレーシングユーロトウディ」で、1'06.569を記録。予選3番手はハットのチャンスを持つ#38「デモリッションエグゼトウディ」、1'06.821で逆転を狙う。気になるのは40キロのウエイトハンディだが。

■序盤

序盤トップに立つのは#36「JKレーシングユーロトウディ」、それを追うのは#23「チームミニ トウディ」。#38「デモリッションエグゼトウディ」にはトラブル発生、スロットルワイヤが切れたとのことで、ピットでの修復となる。

■中盤

中盤のステントでトップに立ったのは#23「チームミニ トウディ」。#36「JKレーシングユーロトウディ」は一步後退。#38「デモリッションエグゼトウディ」はなんとか戦線に復帰し、完走を目指す。

■終盤

終盤では#23「チームミニ トウディ」が引き離しにかかる。最終ステント前で3Lapの差は安全圏だが、この天候では油断は禁物。#38「デモリッションエグゼトウディ」は完走扱いとなる周回に何とか持っていきたいが。

■最終結果

#23「チームミニ トウディ」は難しいコンディションの中118Lapを走り総合優勝。2位の#36「JKレーシングユーロトウディ」との差は3Lap。#38「デモリッションエグゼトウディ」は5Lapほど完走にはならず、残念な結果に。

■総評

雨でパワー差が相殺されたとはいえ、総合優勝はお見事！#23「チームミニ トウディ」。#36「JKレーシングユーロトウディ」は2戦ぶりの表彰台。一方ハットを狙った#38「デモリッションエグゼトウディ」はトラブルに沈んだ。



連勝を止めたぜ！！



オイルは譲らないぜ！！



最後は総合でも3位となる117Lap #93



本来のクラスで初表彰台の2位 #69



しっかりと表彰台をキープ #112



雨の中完走おめでとう #71

KTCクラス（軽過給機のクローズドクラス）

第2戦で新規格の#71「Team Jatsun アルト」が勝利を挙げたこのクラス。今回は5台が出走。真夏のターボ車の耐久性に注目が集まるはずだったが、天候は曇り。熱対策というよりも雨対策の方が気になる。

注目は上り調子の#71を熟成の旧規格マシンたちが迎え撃つという構図、#93「藤枝マリンダイビングアルト」、#112「白須賀会カプチーノ」はともに優勝経験のある強豪チームだ。それに今回は#69「モモヤマレーシング」と#71「エンゼル」の旧規格アルトも参加してのバトルだ。

■予選

予選トップは#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'06.913、クラス唯一の6秒台に入れた。2位は#112「白須賀会カプチーノ」1'07.457で逆転で2勝目を狙う。3位は#69「モモヤマレーシングアルト」1'08.789、第2戦ではKTOクラスとして出走したが本来のクラスに戻って好位置をキープ。予選4位に注目の#71「Team Jatsun アルト」1'09.391、20キロのウエイトハンデを積む第2戦の勝者はこの位置からスタート。5位は#71「エンゼルアルト」1'21.496、雨ではあるがしっかりと走って上位をうかがいたい。

■序盤

序盤の首位は#93「藤枝マリンダイビングアルト」、予選の速さを活かし首位固めを図る。置いていかれたくない他のチームは2番手争い、#71「Team Jatsun アルト」とがつかぜり合い。4位は#112「白須賀会カプチーノ」、5位の#71「エンゼルアルト」は徐々にペースをつかんでいく。

■中盤

中盤戦に入ると雨は本降りに。各チームとも細心の注意を払ってのレース展開。そんななかで首位をキープするのは#93「藤枝マリンダイビングアルト」、それを2位争いから抜け出しそうな#71「Team Jatsun アルト」が追ってくる。3位#69「モモヤマレーシングアルト」はここで離れたくない。

4番手#112「白須賀会カプチーノ」はウエットでの後輪駆動はかなり神経を使う。#71「エンゼルアルト」は初参加がウエットレースとなってしまったが、集中力を切らさず走り抜きたいところ。

■終盤

終盤でトップを奪ったのは#71「Team Jatsun アルト」、ウエイトハンデがありがたながら2連勝に向かって理想的な展開。#93「藤枝マリンダイビングアルト」も一歩後退したものの、ワンチャンスの再逆転にかける。3位は#69「モモヤマレーシングアルト」、首位とは3Lapほどあるが、後ろとも3Lap。こういう展開の時はしっかりと目標を持って走るのが難しいシーンでもある、チームの指示はどうか。

4位#112「白須賀会カプチーノ」は、もう何としても詰めるしかない、表彰台にたどり着けるか。#71「エンゼルアルト」は完走目指して最後のスパートだ。

Race Report



■最終結果

レース終盤でトップに立った#717「Team Jatsun アルト」、あとはフィニッシュというところだったが、残り10分少々というところで1コーナーでコースアウト！勝利を目前にしたところで残念。

かわってトップチェッカー受けたのは#93「藤枝マリンダイビングアルト」。開幕戦で逃した勝利を手にした。2位には#69「モモヤマレーシングアルト」が嬉しい初表彰台。そして3位には#112「白須賀会カプチーノ」が滑り込んだ。そして4位#71「エンゼルアルト」も見事完走。

■総評

最後の最後で#717「Team Jatsun アルト」は惜しいことになってしまったが、中盤から終盤にかけては見事なレースで、すっかりと新規格アルトをモノにしたようだ。それに対する旧規格勢も相変わらず速く、強い。いよいよ次戦は4時間耐久、今度こそ暑い中でのターボ車の耐久ドライブが待ち受けている。心配なのは台風だが、皆のパワーで振り払ってくれることを願っている。



途中までは理想の展開だったが #717



スタート後はまだドライだったが・・・



トロフィーとオイル WでGet！



スタート時はまだ曇り、嵐の予感

KTOクラス（軽過給機のオープンクラス）

5台が参加したこのクラスにも開幕連勝中のチームがいる。、#32「爆走あばれ馬ミニカ」は開幕ハットトリックを狙う。それに立ち向かうのは、同じく新規格マシンの#12「KC テクニカアルトバンターボ」、さらに旧規格車の実力派チーム#210「ZEST ルブロスアルト」と#14「ガレージシヤマ TTS アルト」、さらには三重から遠征の#101「BC 工房カプチャーノ」という新旧規格マシンのチームががっぷりと組んだバトルに興奮もMAXだ。

■予選

予選トップは全体のPPで#32「爆走あばれ馬ミニカ」、1'05.756、2位には#12「KC テクニカアルトバンターボ」、1'06.258とKNOクラスを挟んで前後に新規格マシンが並ぶ。3番手は初参加の#101「BC 工房カプチャーノ」1'06.431でその横につける。4番手は#210「ZEST ルブロスアルト」、1'06.622、その後ろの5番手には#14「ガレージシヤマ TTS アルト」、1'06.864、最後尾にこちらも初参加の#8「楽市楽座ワーク安土号」、1'26.835、お館様のような天下布武なるか。

■序盤

スタートの直前、グリッドに整列しているときにPPの#32「爆走あばれ馬ミニカ」から白煙が上がる。オイルのようなだが、路面にこぼれてはいないということでスタート。しかし、すぐにピットインすることに。

これでトップ争いは#210「ZEST ルブロスアルト」と、#12「KC テクニカアルトバンターボ」に。3位は#14「ガレージシヤマ TTS アルト」が上がりすぎをうかがう。#101「BC 工房カプチャーノ」もトラブルから戦列を離れリタイヤとなってしまう。4位#8「楽市楽座ワーク安土号」も自分たちのペースをつかみつつある。

■中盤

雨の中好走したのは、#12「KC テクニカアルトバンターボ」。乗りやすいセッティングなのかじわじわとリードを広げる。2位の#210「ZEST ルブロスアルト」と3位#14「ガレージシヤマ TTS アルト」は離されずについていきたいところ。4位#8「楽市楽座ワーク安土号」も、雨の中慎重なドライブながら徐々に周回を重ねている。

5位はオイル漏れの修復から復帰した#32「爆走あばれ馬ミニカ」、上位からは離されてしまったが、一つでも上を目指そうと懸命な走り。



ここはさすが今季初勝利！ #210



こちらもシブく走って今季初ポディウム #14



ポールのマシンから白煙が



終盤までレースを支配していたが・・・#12

Race Report

■終盤

終盤に入っても#12「KCクニカアルトバンターボ」が首位をキープ。2位との差を3Lapほどに広げてレースをコントロール。2位は#210「ZESTルブロスアルト」だが、果たして追いつけるか。

3位走行は#14「ガレージイシヤマ TTSアルト」、Lap的には少し開いたが、そこは実力のあるチームだけにまだまだあきらめてはいない。4位、5位は#8「楽市楽座ワーク安土号」と#32「爆走あばれ馬ミニカ」だが、その差は詰まってきており順位の変動があるか。

■最終結果

レース終了を30分後に控えた12時前、トップを走行していた#12「KCクニカアルトバンターボ」がコースアウト、クルーがあわてる。幸いマシンのダメージは少なく走行は続けられるが、順位を下げてしまう。入れ替わってトップに浮上した#210「ZESTルブロスアルト」が今季初優勝！みごとに荒れたレースを制した。2位はしぶとく走った#14「ガレージイシヤマ TTSアルト」、こちらは今季初表彰台。3位には惜しかった#12「KCクニカアルトバンターボ」、4位は最終盤で一つ順位を上げた#32「爆走あばれ馬ミニカ」、5位は#8「楽市楽座ワーク安土号」が完走という結果。

■総評

PPがグリッドで白煙、緊急ピットイン、カプチーノはわずか10Lapでリタイヤ、そして最終盤でのトップがコースアウトとめまぐるしい展開をしめたのは、地元の勇#210「ZESTルブロスアルト」、今季初優勝で新規格に行きかけた流れを引き戻したか。さあ次戦は4時間耐久、ハイパワーターボの熱を制するチームはどこか。



初参加で雨の洗礼 #8



爆走で順位を一つ上げる！



本領を発揮する前にリタイヤは残念 #101

